

みずきただより

— かしこく やさしく たくましく —

第11号

令和8年1月26日

瑞穂野北小学校

発行者 阿久津 浩久



2026年 今年もよろしくお願いいたします

よき新年をお迎えのことと思います。1月8日は子供たちの元気な顔を見ることができ、うれしく思いました。毎度のことですが、大きな事故やけががなく長期の休み明けに子供たちの笑顔を見ることができると本当にホッとなります。ありがとうございました。

今年は午年です。パワーとスピードを兼ね備えた動物であることから勝負ごとに勝つ、挑戦したことが成功すると言われます。子供たちには目標を立てることに合わせて、どうやってそれを達成するか見通しを考えていけるように話したところです。同時に、学校にとって1月は間もなく1年間が終わる、つまりまとめの時期でもあります。6年生の卒業をはじめ、各学年が4月の進級に向けて1年間の総括をしっかりと行っていくことを期待しています。

今年は寒波が周期的にやってきて、北陸や北海道の大雪に合わせて厳しい冷え込みとなる日もありますが、春の訪れを心待ちにしながら子供たちとともに元気に頑張っていきたいと思います。引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。



冒険活動教室で見えた学校における安全・安心

先月末に5年生が冒険活動教室へ行ってきました。活動の中に「イニシアティブ・ゲーム」というものがあります。3m近くある壁をチーム全員が上ったり、不安定なロープや丸太から落ちないように列を並べ替えたりと一筋縄ではいかない課題に挑戦していくものです。高い壁を見上げた子供たちは多くが諦めモードでした。消極的なつぶやき、指導員の説明を聞きながら後ずさりしてしまうなど、見ていて「やっぱり無理なのか…」と感じずにはいられませんでした。しかし、指導員の「どの学校の子もみんな達成したよ。」「登るコツはまず『脇ロック』から…」という話を聞くうちに安心して勇気が出たのか「じゃあ、まず〇〇さんをみんなで持ち上げよう」と声が出始め、次第に「いけるいける、そこ踏ん張って！」などの声が山に響きました。最後は「達成したい！」という気持ちで一丸となって果敢に挑み、すべてのチームが上りきることができました。



ご家庭でも同じかもしれません、学校で常に優先されるべきは子供たちの安全、そして安心です。しかしそれは単に守られる安全・安心だけではありません。学校教育における安全や安心は、子供たちが新たな学びや未知の体験に挑むための土台です。挑戦にはリスクが伴いますが、挑戦無くして新たな知識や技能の獲得はできません。したがって

学校では不必要的事故を防止するための安全な環境と、挑戦してみようと思える安心できる集団をつくりあげることに努めています。5年生が文字通り「壁を乗り越えた」ように、さまざまな挑戦によって子供たちの可能性をのばす取組を進めていきたいと思います。



まゆ玉づくり、どんどん焼き（1月9日、10日）

どんどん焼きに向けて、9日(金)にまゆ玉づくりを行いました。ボランティアの皆様が早くから家庭科室で下準備をしてくださいり、3年生が生地を丸めてまゆ玉を作り、ミズキに飾りました。



PTAの皆さんのが10日の廃品回収後から組み上げを始め、今回も立派なやぐらができ上りました。前日は寒さと風が少しあって心配していたのですが、当日は穏やかな天候の中、6年生が点火すると大きな炎が暗くなり始めた空を明るく照らしました。

子供たちとあぶったまゆ玉を食べ、勢いよく天に上る炎を見ながら、健康で充実した一年間となるようみんなで願いました。



廃品回収、お世話になりました 1月10日(土)

夏に引き続きPTA執行部をはじめ、厚生部や地区実行委員の皆様には回収や仕分けなど、大変お世話になりました。今回も皆様のご協力によりたくさんの資源を回収することができました。主力の新聞紙や雑誌、段ボールなど、集積用のコンテナにぎっしりと積み上げられました。

【収益】

42, 195 円

結果は右記のとおりとなりました、有効に活用させていただきます。ありがとうございました。

コラム ~問題を自分の内側に置く~

学校だよりで思うところをつづり始めてから、気が付くと1年が経ちました。しかもどんどん紙面の割合が増していくコラム欄ですが、たまに内容へのご意見をいただくこともあります、ありがとうございます。

今回のお題「問題を自分の内側に置く」は、20年ほど前にある大学の先生がおっしゃった言葉で、私の座右の銘です。問題が起ったときに自分がどうだったのかをまず振り返るべきということです。自己主張が重んじられる現代社会ですが、トラブルが発生するとまず相手の非を主張するケースが目立ちます。多くの場合、問題は双方に何らかの原因があって起きることがほとんどなのですが、最初から非難し合ってこじれた関係は、その後事実が明らかになっても修復は困難です。一方、まず自分に何か落ち度がなかったか、油断や配慮に欠けた部分がなかったかを考えていけば、原因が明らかになったときにも互いの非を許容することができます。さらに、問題の解決と共に良好な人間関係ももたらされることが期待できます。

人のかかわりが希薄になりつつある中、コミュニケーション力を高めることも必要ですが、日本人のよさとも言われる「謙虚さ」や「奥ゆかしさ」なども、子供たちに育みたいものです。